

2018年度 早稲田大学大学院教育学研究科

高度教職実践専攻入学試験

(一般入試(前期日程):筆記試験(教職教養))

問題用紙

注意事項

1. 問題冊子および解答用紙は、試験開始の指示があるまで開かないこと。
2. 問題は、2～4ページに記載されている。試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督員に知らせること。
3. 受験番号および氏名は、試験が開始されてから、解答用紙の所定欄に正確に記入すること。なお、解答用紙が複数枚ある場合には、それぞれの所定欄に正確に記入すること。
受験番号は以下の例のとおり、数字で記入すること。

(例) 11001 番 ⇒

万	千	百	十	一
1	1	0	0	1

4. 解答はすべて解答用紙の所定欄にHBの黒鉛筆またはHBのシャープペンシルで記入すること。
5. 試験終了の指示が出たら、すぐに解答を止め、筆記具を置くこと。終了の指示に従わずに解答を続けた場合は、答案の全てを無効とするので注意すること。
6. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ること。
7. いかなる場合でも、解答用紙は必ず提出すること。

問 1. 次の文章は、現在実施されている中学校学習指導要領のうち「第 1 章 総則」の「第 1 教育課程編成の一般方針」に記述されている一節である。(①) ～ (⑤) に当てはまる語句を解答欄に書きなさい。

各学校においては、教育基本法及び (①) その他の法令並びにこの章以下に示すところに従い、生徒の人間として (②) のとれた育成を目指し、(③) や学校の実態及び生徒の心身の (④) の段階や特性等を十分考慮して、適切な (⑤) を編成するものとし、これらに掲げる目標を達成するよう教育を行うものとする。

問 2. 以下は、平成 27 年 12 月 21 日に公表された「新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方と今後の推進方策について」(答申)(中教審 186 号)の「はじめに」で、答申全体を紹介している文章である。(①) ～ (③) に当てはまる語句を書きなさい。

この理念を実現すべく、本答申では、これからの教育改革や地方創生の動向を踏まえながら、学校と地域の連携・協働を一層推進していくための仕組みや方策を提言している。

具体的には、まず、第 1 章では、学校と地域の「(①) としての連携・協働関係」への発展の必要性とともに、これからの学校と地域が目指すべき連携・協働の姿を示した。

次に、第 2 章では、学校が抱える課題の解決を図り、子供たちの教育活動等を一層充実していく観点から、地域住民等と目標やビジョンを共有し、地域と一体となって子供たちを育む「地域とともにある学校」に転換していくための (②) な仕組みとして、コミュニティ・スクールの仕組みの制度的な見直しや推進方策を提言している。

さらに、第 3 章では、より多くの、より幅広い層の地域住民が参画し、子供たちの成長を地域で担うとともに、(②) な地域社会を構築する観点から、社会教育の体制として、地域住民や団体等のネットワーク化等により学校との協働活動を推進する「(③)」の整備を提言している。

最後に、第 4 章では、コミュニティ・スクールと「(③)」が相互に補完し、高め合う存在として、両輪となって相乗効果を発揮していくための在り方について提言している。

問3. 以下の文章の空欄（ ① ）～（ ⑤ ）に入る最も適した語句を解答欄に書きなさい。

（1）1879年、文部大輔の（ ① ）らが立案した教育令が公布された。この教育令は、画一的・中央集権的な教育を改め、教育の権限を地方に委ねるなど、その自由主義的性格から「自由教育令」とも呼ばれた。しかし、教育に対する行政の統制力の弱まりや、就学率の低下が地方官から批判され、翌80年には改正教育令が公布され、教育に対する国家的な統制が強まった。また、この改正教育令により、小学校の教育において（ ② ）科が最も重要な教科として位置付けられることになった。

（2）第二次世界大戦後の日本では、アメリカの経験主義に基づく（ ③ ）学習が受容され、戦後の新教育と呼ばれる独自の教育実践が全国で展開された。また、この時期には教育課程の改良も盛んに試みられ、とりわけ（ ④ ）は新時代の代表的な教育として研究がなされ、教科の枠組みを超えた実践が行われた。特に、戦後に新設された（ ⑤ ）科では、子どもが現実社会で直面する課題への取り組みを中心に、様々な（ ③ ）型の学習が展開された。

問4. 以下の3つの問いについて、それぞれにあてはまる記号を解答欄に書きなさい。

（1）パーテンによる遊びの発達の段階に含まれないのはどれか。

- | | | |
|----------|----------|---------|
| ア. 傍観者遊び | イ. 連合遊び | ウ. 並行遊び |
| エ. 模倣遊び | オ. ひとり遊び | |

（2）ハワード・ガードナーの多重知能理論と最も関連が低いものはどれか？

- | | | |
|------------|----------|----------|
| ア. 拡散的知能 | イ. 空間的知能 | ウ. 内省的知能 |
| エ. 論理数学的知能 | オ. 言語的知能 | |

（3）学習の転移と最も関連が高いものはどれか。

- | | | |
|---------|---------|---------|
| ア. 集中学習 | イ. 潜在学習 | ウ. 分散学習 |
| エ. 逆転移 | オ. 鏡映描写 | |

問5. 以下の(A)～(D)のそれぞれの領域について、いずれかの語句を選び、その説明を解答欄に書きなさい。なお、解答用紙の該当欄に、選んだ語句をそれぞれ記入すること。

領域 (A)

- ☐ 学習評価
- ☐ アカウンタビリティ

領域 (B)

- ☐ 主任制の導入 (1975 年)
- ☐ 教育審議会 (1937 年設置)

領域 (C)

- ☐ カリキュラム・マネジメント
- ☐ 主権者教育

領域 (D)

- ☐ 発見学習
- ☐ ソシオメトリー

2018年度 早稲田大学大学院教育学研究科高度教職実践専攻入学試験
(一般入試(前期日程):筆記試験(教職教養) 解答用紙)

受験番号					
氏名					

採点欄

問1	①	②	③	④	⑤
問2	①	②	③		
問3	①	②	③	④	⑤
問4	(1)	(2)	(3)		

この右の枠内には、何も書き込まないでください。

--

--

--

--

問5	
領域(A) 選択語句名	
説明	

--

領域(B) 選択語句名	
説明	

--

領域(C) 選択語句名	
説明	

--

領域(D) 選択語句名	
説明	

--